

人材育成WG 令和7年度活動計画案

はじめに～本WGにおける人材育成の考え方～	P2
令和7年度WGの活動と運営の基本方針	P3
令和7年度活動全体図	P4
年間スケジュール案	P5
令和7年度活動計画案	P6～P14
新年度への課題 挑戦	P15～P16
WXBC設立10年に向けて	P17

はじめに～本WGにおける人材育成の考え方～

人材育成WGの役割について： 気象データのビジネス活用推進を設立目的とする本コンソーシアムにおいて、人材育成WGは、**気象データの活用に必要な知識/知見とスキルを有する人材**を育てることで会員の**気象ビジネスへの手掛かりを提供ならびに更なる取り組みを支援**する

気象ビジネスの推進に必要な知識/知見とスキルについて： 本WGでは下記3つを気象ビジネスに必要なスキルと定め、①②③を有する人材を育成できるよう各種の活動を企画・展開する

①気象データ理解力、②IT活用力&データ分析力、③課題解決力、新規発想力

一人が上記3つの能力を有するのが最終ゴール※ではあるが、本WGでは2つの能力を有する二人で「二人寄れば文殊の知恵」が可能となる人材の育成を目指し、活動を企画・実施する

※①②③の能力を有する人材として気象データアナリストを想定し育成講座を提案。実現に尽力

参照：「気象データ利用ガイド」 気象データを使ってみませんか 3) 気象データを活用するために

→<https://www.data.jma.go.jp/developer/weatherdataguide/howto.html>

人材育成WGにおける取り組みについて： 気象データのビジネス活用を推進するためには、**人材の裾野拡大と先導者の育成**が必須と考え、裾野拡大のための**広める活動**と先導者育成のための**深める活動**として企画・実施する

参照：次頁「人材育成WG：令和6年度活動全体図」

自発的、自律的な活動の推進について：「深める活動」では、**発案されたテーマに関心をもつメンバーが参集し、自発的、自律的に目標や活動方法等を計画、運営**する勉強会活動を推進する。

各勉強会の活動ならびに勉強会間の連携活動を踏まえて、各自が知見とスキルを深め、各分野における気象ビジネスの先導者になることを目指す。

令和7年度 WGの運営と活動の基本方針

【これまでの活動の維持について】

人材育成WGは2017年6月に活動を開始して以来、WGの命題として「気象データをビジネスに活用できる人材の裾野拡大と先導者育成」を掲げ、各種の活動を展開している。

広げる活動と深める活動の2つを軸とする活動の積み重ねで、確実な進展がみられることから、令和7年度も同じ活動体制を維持することとする。

【これからのWG活動の形態について】

コロナ対策として2020年4月に利用し始めたオンライン会議を中心に、活動を展開、継続してきた。

オンライン会議は場所を選ばず開催できる点、主催側にとって便利であり、参加者にとっても利便性が高いなど、そのメリットを十分に享受し、かつ、しっかりした活動を維持することができた。

あれから4年が経過し、状況も変化してきた。久しぶりに対面形式を経験した人達は、一様に対面開催にはオンラインでは得難い程の情報量がある、やっぱり対面は良いと語る。

曰く、表情や雰囲気、態度から読み取れる情報量が多い、熱量が感じられ発言し易い、お互いに発言のタイミングを掴み易く円滑で柔軟な意見交換ができる等。

令和7年度では、オンラインと対面それぞれの特性と良さを活かしながら、適宜、対面&オンラインのハイブリット開催し、終了後には懇親会を開催するなど運営面での工夫をしていきたい。

【WG参加メンバー間の交流の場、異業種間の交流の場を強化】

参加メンバーが対面で交流の場を持つことは、メンバー間の交流や異業種間の交流が深まり、即ち、異業種連携推進のきっかけともなる。結果として活動の活性化、あるいは、新しいビジネスパートナーシップの誕生など、WG活動に新しい展開が起こることも期待される。

このような運営面での取り組みが気象ビジネスの更なる推進に繋がることを祈念し、WG活動を更に前進させていきたい。新年度も、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

人材育成WG：令和7年度活動全体図

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で自らの知見とスキルを深め、先導者を目指す

広める活動

【WXBC全体活動】

WXBC気象データのビジネス活用セミナー

＜座学＞（2017年7月開始）

- ・気象データ利活用の有意性を訴求
- ・気象データ解説と事例紹介の2テーマで開催

気象データ分析チャレンジ！

＜演習中心＞（2017年11月開始）

- ・IT活用&データ分析のスキル向上
 - アメダスデータ 入門、Python版
 - 気象庁GPVデータ 入門、基礎編（アンサンブル予報データを含む）
 - 農研機構メッシュ農業気象データ

地方展開

（2017年10月開始）

- 講演
- 意見交換会 等

【人材育成WG特別企画】

オープンセミナー（2021年4月開始）

WXBC版ジュニアセッション（2022年8月開始）

深める活動

【外部研修機関】

気象データアナリスト育成講座

（2021年10月開講）

- ・気象庁からの依頼をもってガイドラインの見直し作業に協力
- ・制度定着への協力・支援

【人材育成WG内活動】

グループ別勉強会

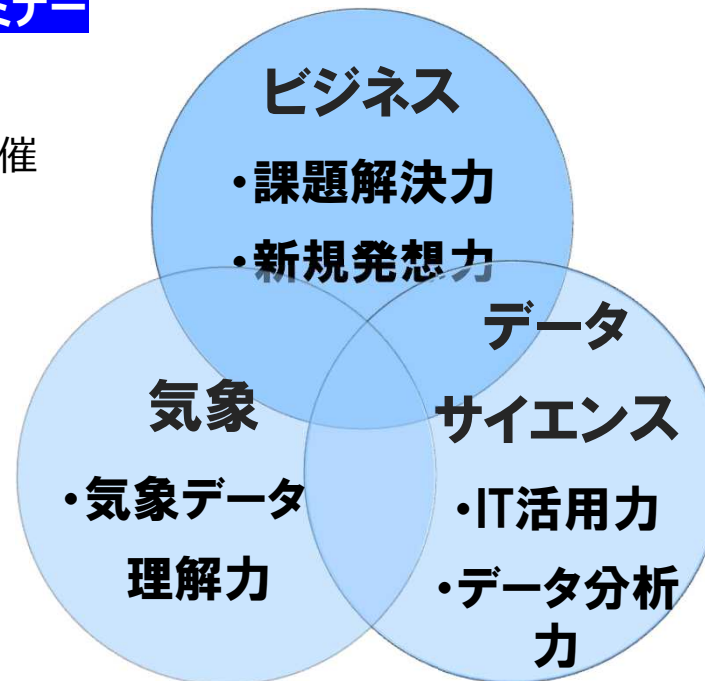
（2020年7月開始）

- ・関心あるテーマを掲げるグループに有志が参集し、自主的&自律的に取り組む活動
- ・6種類の勉強会が活動展開中

お困りごと相談

（2023年11月開始）

- ・WGメンバーが抱えるお困りごと相談を受け、解決の方法や道筋を共に検討する場



ビジネスへの気象データ活用に必要な3つのスキル

令和7年度 年間スケジュール計画案

月次開催：

- ・人材育成WG 月例全体会議（毎月第3金曜日午後）
第一部：活動報告、第二部：話題提供、第三部：グループ別勉強会
- ・グループ別勉強会（月例全体会議終了後/別日に開催。日々の情報・意見交換はSNS等を利用）
- ・リーダー会（毎月第4月曜日午後。勉強会間の意見交換、連携等を検討）

週例開催：

- ・座長 & 副座長オンライン会議
（毎週月曜日午後開催。適宜、事務局や話題提供者との打ち合わせも実施）

随時開催：

- ・「WXBC気象データのビジネス活用セミナー」（ビジネスWG + 事務局との共同企画）
- ・「WXBC気象データのビジネス活用セミナー（データ解説編）」（事務局との共同企画）
- ・「気象データ分析チャレンジ！」
アメダスデータ分析チャレンジ！ 入門、Python版、気象庁GPVデータ分析チャレンジ！ 入門、基礎編
農研機構メッシュ農業気象データ分析チャレンジ！
- ・新規WG参加者との交流（顔合わせ & 活動紹介@オンライン）
- ・お困りごと相談窓口
- ・地方展開
- ・「気象データアナリスト育成講座」ガイドライン検討委員会（気象庁からの要請をもって実施）

===

特別企画（年次開催）：

- ・第5回人材育成WGオープンセミナー
- ・第4回WXBC版ジュニアセッション、発表者 & 顧問の先生方との新春懇親会

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の裾野拡大と先導者の育成

施策：

【広める活動】 セミナーや研修を開催し、蓄積・体系化された知識やスキルを広く伝播する

**【深める活動】 自主的な活動（調査、研究、考察、実証等）で自らの知見とスキルを深める
蓄積・取得した知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す**

【活動内容】

1. 広める活動

- ・気象データに関する知識と活用スキルを習得できる場として、セミナーや研修を継続する
- ・セミナーや研修を可能な限り非会員も参加可能なオープン開催とし、気象データと利活用に関する知識/知見とスキルを有する人材の裾野拡大に繋げる

- ①ビジネスWG、事務局と共同し、「**WXBC気象データのビジネス活用セミナー**」を企画・実施
- ②気象データ理解力向上への取り組み強化として、「**WXBC気象データのビジネス活用セミナー（気象データ解説編）**」を企画・実施
- ③アメダスデータ、気象庁GPVデータをメインに「**気象データ分析チャレンジ！**」を企画・実施
- ④**地方展開**として地方セミナーや研修、モデルケース横展開等への協力・支援

2. 深める活動

自主的な活動で、自らの知見とスキルを深め、先導者を目指す

グループ別勉強会：

1) 人材育成WG内活動「グループ別勉強会」を継続し、下記の進展に注力する

- ①ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりを推進し、連携・協働を通して人材の育成を図る
- ②情報・経験の共有、議論、調査・研究、考察、実証等の活動を通して、仲間と共に学び、自らの進化と深化を図る
- ③深める活動で蓄積・取得した自らの知見やスキルを発信・伝播し、先導者になることを目指す

2) 随時、新しいテーマの勉強会を加え、勉強会活動の更なる進化と深化を目指す

令和7年度 グループ別勉強会活動計画案（詳細参照：P8～P13）

- ・農業分野勉強会
- ・再生可能エネルギー勉強会
- ・季節予報勉強会
- ・気象データの利活用拡大と創出価値の考察勉強会
- ・扱いやすいオープンデータの形を探そう勉強会
- ・気象データ × IT勉強会

気象データアナリスト育成講座：

- ・ガイドラインの見直し作業に協力（気象庁からの要請をもって発動）

お困りごと相談窓口：

- ・WGメンバーが抱えるお困りごと相談を受け、解決の方法や道筋を共に検討する場

農業分野勉強会

多様な気象データの活用・高度利用で日本農業を元気に！（物語 第六章へ）

【令和7年度の活動計画案】

令和7年度は、主体的に進化を続ける共創の場（CoP）と協同して、『**徹底的に現場の声を伺う活動**』を深めることから、新たな気づきに向合い積上げてきた勉強会“志”の成就をめざし、物語第六章を展開して行く。

- 農業分野勉強会：協同するCoPと共に、地域やパーソナルな課題を探求し、関連する産学官の組織と農業現場をつなぐ役割を果たしてゆく。また、人材育成WGの他の勉強会との連携を深める年としたい。
 - 気象予報士CoP：予報士の議論を深め、自ら計画した取組みの具体化を進め実践して行く
 - 野菜くらぶCoP：現場の声を伺う活動を継続し、作物生産と供給・流通の連鎖を踏まえた課題解決を検討する
 - オーレンスCoP：暑熱対策など気象リスク対処が、問われている。経営視点で持続可能な課題解決に取り組む

再生可能エネルギー勉強会

再生可能エネルギーと気象に関する話題や意見の交換で知見を深化

【令和7年度の活動計画】

- 定例勉強会：再生可能エネルギーや周辺技術（水素、蓄電）、海外事例、気象を絡めた議論。 来年度もメンバーからの話題提供を積極的に！

対面での勉強会を数回行う

- 外部講師からの話題提供（気象データ活用、再エネ事業者などにヒアリング）
- 他の勉強会との連携
- 学会での企画セッション



JpGU2025：すでにRenewable Energy（国際）セッションとして（5/28PM@幕張メッセ）開催予定

日本太陽エネルギー学会（年2回程度開催予定）

- 設備見学（参加メンバーの企業、営農型太陽光発電設備など）
- 若手向けコンテンツの作成



https://www.jpгу.org/meeting_j2025/

【関心のある想定テーマ】

- 第7次エネルギー基本計画と再エネ
- 効率的な発電設備配置
- 再エネ発電量予測の産業利用
- 気象データと再エネサービス
- 地域ごとの気象データを活用した再エネプロジェクトの事例
- 再エネと気候変動適応策
- 気象災害を考慮した再エネ施設



季節予報勉強会

民間主導の季節予報（気候情報）の利活用促進

【令和7年度の活動計画】

引き続き

- ・ 3か月予報の解説や季節ごとの発表予報の振り返り
- ・ 季節予報を提供する側の参加者からの情報提供
- ・ 季節予報を利用する側の参加者からの情報提供

を行う予定

より有益な勉強会となるよう、今後も参加者の方々と検討していければと考えています

気象データの利活用拡大と創出価値の考察勉強会

～気象データの一層の活用拡大を目指して～

【令和7年度の活動計画】

◆ 気象情報の利活用状況の認識

- 本格的に気象情報が利活用されている領域はある程度はあるものの、定量的活用までには至っていない分野・気象現象の影響はあっても対応はしていない分野・気象現象の影響はないと考えている分野も多い。また、経済活動への利活用に対して、社会活動などの対応は十分に進んでいるともいえない。

◆ 活動の基本方針

今までの利活用拡大の議論を次の3方向で、前進させて行く。検討対象は、利活用分野を特定せずに大局的に検討する。

1. **【深化】** 既に気象情報利活用が為されている分野を、さらに進化させて深める。

- ✓ 中長期予報を始めとする予報の表現や組合せ方などの検討（浸透とも関連）

2. **【浸透】** 気象情報利活用が進んでいる分野の中でも、まだ、未適用のケースもあり、ここへの活用浸透を図る。

- ✓ 気象情報の価値化プロセスの明確化による定量的分析のしきいの低下（深化とも関連）
- ✓ 気象情報と共に分析する他のデータとの連携などの気象現象利活用が進んでいない要因（壁）の分析、および、利活用への期待の分析（深化・拡張とも関連）

3. **【拡張】** 気象の影響への対応が行われていない、または、影響がないとして利活用が為されていない分野の開拓を進める。

- ✓ 気象現象のビジネス等への影響が見過ごされてケースの発見とその影響度合いの評価
- ✓ 気象現象の間接的な影響の抽出・分析（産業間での気象現象の影響の波及など）

◆ 活動の進め方

- 勉強会の個々のメンバーが重要と考える課題や、進め方に応じた自由な検討考察活動の継続（こだわりテーマの追求）
- 議論の輪を広げるための活動 – 勉強会メンバー以外の方々からの知見をうる活動、若い世代の方々も含めたアイデア出し、社会の長期トレンドの中で気象の影響に関連する状況の抽出など
- さらに、可能な範囲で、検討考察により得られた利活用方策の効果の規模感の一次評価

扱いやすいオープンデータの形を探そう 扱いやすいオープンデータの提案・提言を目指して

【令和7年度の活動計画】

◆【お天気アプリの作成】

- 未実装（仮作成）した画面・機能について、随時、実装化を進める予定
- PDFデータ等、メジャーなファイル属性について、取り込み方式の検討を継続する予定。
- 気象庁が提供するレーダーナウキャストの画面表示の方法を応用し、日本道路交通情報センターが提供する会場周辺の道路状況の実装を検討予定。
- 熱中症等、博覧会会場で発生が予見される事象について、データ提供方法を検討予定（環境省が提供する熱中症アラート情報の取り込み等）
- 試用版の提供方法を整理、検討予定（関係者への調整を含む）

◆【2027年国際園芸博覧会】

- 引き続き、博覧会協会、横浜市の進捗状況を随時確認し、イベント等への参加を継続する予定

◆【感染症】

- 新型コロナ、インフルエンザをはじめとする感染状況を引き続き都度確認し、それぞれの感染症のウイルスの特性等の知識習得を継続予定
- 身近で感じる感染状況等のディスカッションを継続、情報共有と正しい知識の習得を継続予定
- 自治体が提供する主要感染症データのグラフに気温、湿度等の気象データを重ねて表示する方法を検討予定（感染症データの取り込み先、方法の検討を含む）

令和7年度活動計画案

気象データ x IT勉強会: 気象データを扱える人材の育成

【令和7年度の活動計画】

令和7年度も今年度の活動方針を維持する。

この際、今年度の総括他を踏まえ、赤字の事項に取り組む

1. メンバーによる主体的な自己研鑽の実施

＜テーマの設定の助けとなるざっばらんな意見交換や情報交換を年度の初めやメンバー入会時に行う。また、気軽に取り組めるような小ネタ例をいくつか 考案する＞

メンバー各自のビジネスや関心に基づく気象×○○の分析や技能の習得を目指す

2. オンライン月例会会の開催

＜Slackでの資料共有や討議概要の掲載などを通し、月例会に参加できなくても学びの機会を失わないよう配慮する＞ 全体会終了後のオンライン開催を基本とし11回開催する

以下を通し、気象×ITの学び場とするとともにメンバーの自己研鑽を支援する

①WXBCテクノロジー研修教材、**事前準備ガイドのブラッシュアップ**

②自己研鑽の発表と意見交換

③WXBC会員からのデータ処理にかかわる質問の解決(案件があれば)

3. WXBCテクノロジー研修教材の開発と講師の担当

＜オンラインと小規模な会場でのハンズオンを組み合わせる開催を検討する＞

WXBCテクノロジー研修のための優れた教材を開発し、講師も担当して、気象データを取り扱える人材の育成に寄与する。さらに、教材の一般公開を通じ「気象データアナリスト育成講座」の充実にも寄与する。

1. 第5回人材育成WGオープンセミナー

- 1) 開催目的：人材育成WGグループ別勉強会活動の状況を発表し、新規の参加者と新しい勉強会の立ち上げのきっかけとする
- 2) 開催日程&形態：令和7年5月16日（予定）午後にオンライン開催。
終了後にオンライン懇親会を予定
- 3) 対象者：WXBC会員 & 人材育成WG会員推薦の非会員※
※WXBCと勉強会活動に関心が高く、WXBCへの入会、WGと勉強会活動への参加が期待できる非会員
- 4) 内容：グループ別勉強会の活動成果発表、気象データ活用談義を中心に構成

2. 第4回WXBC版ジュニアセッション

- 1) 開催目的：気象が大好きな中高校生達の研究発表から新しい気づきを得る場、発表者と顧問の先生方と交流する場
- 2) 開催日程&形態：令和7年8月8日（予定）午後にオンライン開催。
修了後に発表者&顧問の先生方との意見交換&交流会
- 3) 参加対象者：WXBC会員、気象庁 本庁&管区气象台(札幌・仙台・東京・大阪・福岡、沖縄)関係者
発表者および発表校関係者、発表者および発表校関係者から招待された報道機関
- 4) 内容：「第11回日本気象学会ジュニアセッション」参加校のうち、今回の特別企画のために発表をお願いした学校による気象学会ジュニアセッション同等の発表

広める活動

【気象データのビジネス活用セミナー：データ解説編】（事務局との共同企画）

- ・会員ニーズの把握によるセミナー参加会員の増加を図る
- ・初学者にも判りやすく、関心を持ってもらえるような解説の工夫
- ・セミナー中に回答しきれない質疑応答の事後フォロー & 共有

【テクノロジー研修「気象データ分析チャレンジ！」】

- ・教材内容の大規模なブラッシュアップは一段落したものと考えるところであり、次の課題は参加者の利便性向上のための実習環境の進化
- ・講師派遣をもって、地方を拠点に対面形式で「テクノロジー研修」を開催し、他の地方からはオンライン参加が可能な形態で実施

【地方展開】

- ・コロナ以前同様、管区气象台の協力を得て各地の特性に合わせた内容による地方セミナーを再開
- ・本WGからの講師派遣をもって、地方展開のサポート体制を再開

深める活動

【グループ別勉強会】

- ・2026年のWXBC設立10年に向けて、各勉強会開始からの活動状況や成果を取りまとめて公開

【気象データアナリスト育成講座】

- ・気象庁からの要請をもって、委員を選定し、ガイドライン委員会での見直し作業を実施

【お困りごと相談窓口】

- ・周知徹底を図るとともに、もっと気軽に利用できるように改善する。また、多くの企業/人が抱える問題を取り上げ、共感する人達と一緒に考えるような取り組みにすることも合わせて検討

月次開催 :

①人材育成WG月例全体会議 (毎月第3金曜日午後開催)

第一部 : 報告事項、第二部 : 話題提供、第三部 : グループ別勉強会活動

- ・第一部、第二部のハイブリッド (対面 & オンライン) 開催、修了後に懇親会を予定
- ・上記形態で3回開催予定 (令和7年7月、10月、令和8年1月)

②グループ別勉強会リーダー会 (毎月第4月曜日午後開催)

- ・勉強会間の意見交換、連携の検討を継続
- ・対面開催の実施継続 (年2回程度)

③グループ別勉強会

(月例全体会議終了後/別日に開催。日々の情報・意見交換はSNS等を利用)

- ・必要に応じて対面/ハイブリッドでの勉強会や懇親会の開催検討

週例開催 :

①座長 & 副座長オンライン会議 (毎週月曜日午後開催)

- ・事務局との打ち合わせ、月例WG全体会議における話題提供者との打ち合わせも継続

随時開催 :

①WG新規参加者との交流 & 意見交換 (オンライン開催を予定)

WXBC設立10年に向けて

来年、令和8年にはWXBC設立10年を迎える。

「令和6年度活動報告」の活動総括でご報告の通り、設立以来の8年間で人材育成のための各種活動の結果が着実に、確実に実りつつある。

この状況を踏まえ、これからの1年、WXBC設立10年に向け活動に一層拍車をかけていきたい。
(参照:「人材育成WG:令和6年度活動報告」活動総括 P16~P18、P21~P23)

気象データのビジネス利用拡大を目指し、気象データをビジネスに活用できる人材の裾野拡大と先導者育成のための活動の更なる進展を目指し、特に下記項目に注力していきたい。

1. 気象ビジネス推進の先導者を一人でも多く輩出すること
 - ・グループ別勉強会の活動テーマの拡充（例えば、農業以外の産業分野等）と新規メンバーの参加促進で知見とスキルの深化
 - ・ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりを通して知見とスキルの深化
 - ・外部研修機関による「気象データアナリスト育成講座」の内容充実と制度定着に向けた協力・支援
2. 気象ビジネスの今を担う若手現役世代の育成、未来を担うジュニア世代との交流
 - ・若手の現役世代が参加したくなる魅力的でやる気が起こるテーマと活動方法の工夫、アプローチの検討